

二段階横断施設を用いた単路部における横断歩行者の安全性向上に関する研究

平成 28 年 2 月 古小路 拳汰

要旨

1. 目的

歩行者の交差点以外での横断は、左右から接近する車両を同時に確認しなければならず、走行車両の速度や距離を見誤ることで車両との事故に繋がる危険性がある。歩行中の交通事故死者数のうち横断中が高い割合を占めることから、歩行者の安全横断支援は重要な課題といえる。本研究では、歩行者事故の防止を目的に、二段階横断施設を用いることで横断歩行者、ドライバーの受容性、システムの有効性等について検証した結果について報告する。

2. 方法

まず、二段階横断施設の利用実態を把握するために、近隣商業施設の買い物客を対象にヒアリング調査を行った。つぎに、ヒアリング調査で得た情報を基に同横断施設の地域住民を対象にアンケート調査を行った。そして、これらから得られた回答を集計し、評価することで同横断施設が横断歩行者に与える安全性や円滑性の向上を明らかにした。

3. 結論

アンケート調査の結果とヒアリング調査の結果より、横断歩行者からは比較的高い受容性が得られ、交通島の設置や互い違いの二段階横断方式は極めて有効であるという回答結果が得られた。一方、ドライバーからは、およそ半数が安全に通行できるかどうか不安に感じており、理由として時間帯に関わらず、横断歩行者の視認性が低いことが大きく関係していることが明らかとなった。「横断防止柵等が歩行者の視認の妨げになっている」、「横断施設を通らず道路を横切る歩行者を何度も見る」という意見もあることから、利用者に対する横断方法の再周知やさらなる施設改良のため、効果検証や今後の改善点の検討を引き続き行っていく必要がある。

指導教員 高瀬 達夫 准教授